

校長研修だより78

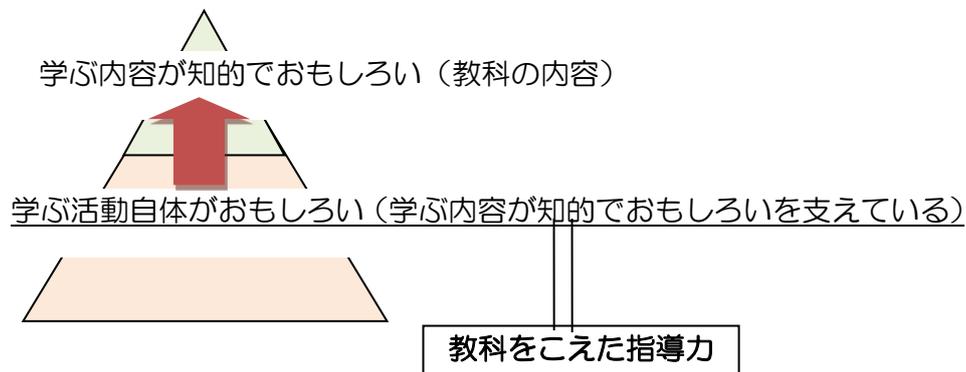
教師が教えたいことを生徒が学びたいことに変える指導力

2022・10・18 重枝 一郎

先日、福岡県教育委員会の指導主事が、このタイトルを県で使わせていただきたいとわざわざ来校された。このタイトルは、以前の学校でのおたよりの中で書いていたもので、そのおたよりをその学校のHPで見てのことだった。当時私は、どんなことを同僚に伝えたかったのかあらためて振り返ることができた。以下に書いているように私は「教科をこえた指導力」という話をさまざまところで話していた。そして、この力は、教師としての幸せを実感できる力になると思っている。その思いで書いたことを思い出した。

さて、生徒が満足する授業のできる、授業上手な先生がいる。その先生は、授業をするとき無意識のうちに、学級集団の状態に応じた工夫をしている。落ち着かない雰囲気的时候は引き締めたり、沈滞ムードのときは盛り上げたり、この対応が実にうまい。しかし、その先生は、それを無意識に駆使している場合が多く、なかなか真似できない。そこで、その技術を整理してみたいと思う。

授業は生きている。即興的に授業を展開しながら、深い洞察で、そのつど状況を把握していく力が、授業上手な先生にはある。授業中に、生徒の何が問題なのかを見抜き、行動を瞬時に決める力がある。この力は、教師が教育実践の過程で身に付けていく力である。そして、「一生、教師でいることが幸せ」と、実感することができる基盤となる力である。



上図の「学ぶ活動自体がおもしろい」は「教科をこえた指導力」と言い換えることができる。授業、行事、係活動、部活動等・・・日常を、ライブなエクササイズにできる力である。この指導力を基盤として、授業上手な先生は、教科の授業を成立させている。ぜひ、授業上手な先生を見て、何かを真似をするところから始めてほしい（校長研修だより54号参照）。ただし、そのまま真似してもうまくはない。

だから、「技術の基礎は見て盗む。その上で自分らしいひねりを加える」という考え方を忘れずにしてほしい。

「教科を越えた指導力」を具体的にいうと、「構成力」と「展開力」になる。

この2つの力を説明すると・・・

① 構成力

これは、授業の枠組みを設定する力。ただし、単に先生が勝手に設定するのではなく、学級集団の状態に合わせて設定する力のことである。

つまり、集団の目安として、「学習になんとか取り組める状態で、最低限の規律しかない状態」なのか、「学習の広がりが期待でき、深化・定着できる状態」なのか、また、授業場面を考えると、「個別」なのか「ペア学習」が有効なのか、「グループ学習」なのか、はたまた「全体」なのか、授業の流れを考えると「テンポよく短く」がいいのか「じっくり長く」がいいのか、授業進行も、「教師主導」なのか「生徒主導」なのか、授業の枠組みをデザインする力のことである。

② 展開力

これは、授業中の先生と生徒のやりとり、生徒同士のやりとりを通して、具体的に授業を展開する力です。これも、学級集団の状態に応じて、授業をどう進めていくのかを考える。先生側から見て、「能動的なこと」と「対応的なこと」から分けて考えてみる。

○能動的なこと

- ・「発問」：学習に向かうきっかけとなる問いかけ。授業展開の大きなポイント。教室のテンションをつくる。
- ・「指示」：意欲にバラツキがあるときは、簡潔にかみ砕いて指示。
- ・「説明」：落ち着きがないときは、一気に説明しない。段階ごと区切りながら。
- ・「提示」：意欲が低いときは、図や絵を使って、短時間で全員が集中できるような方法。
- ・「活動促進」：教室をオーガナイズする（机等の配置等）。ルーティン化された行動を活用しながら活動に巻き込む。

○対応的なこと

- ・「発言の取り上げ」：意欲を伝播させる。
- ・「賞賛」：承認感を上げる。ルール遵守を誉めルールを強化。活動の質が向上。
- ・「注意」：学年の初めに実現する項目は、チャイム席、忘れ物、準備、構え、あいさつ等。言語コミュニケーションにかかわる約束事が大切になる。たとえば、注目して聴く、考えをその場でもしくは前に出て発表、ペアやグループでの話し合いは、積み上げ的にルールとマナーをつくる等。
- ・「空気づくり」：「賞賛」「注意」をするときは、シンプルでぶれない指導がポイント。この対応が教室の教育力のある空気をつくる。
- ・「自己開示」：教師自身の経験を生かして、ひとりの大人としてモデルになる。

本日、「幼稚園保護者対象教育講演会」をしてきます。どんな反応をいただけるか不安であるが、本校の魅力的な先生が、この学校をつくっている話をいつものように話してくる。保護者の方が、少しでもワクワクしてもらえようがんばってきます。